

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2018年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2019年 4月 10日 提出

1. 研究課題名	
近代から戦後京都における「都市景観」と「京町家の暮らし」の変化に関する研究 (英文標記: Study on the change of urban landscape and the livelihood in Kyo-machiya in the modern and postwar Kyoto)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
高橋 彰(たかはしあきら)	関西学院大学総合政策学部 契約助手
3. 研究分担者 (合計: 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
矢野桂司(やのけいじ)	立命館大学 教授
河角直美(かわすみなおみ)	立命館大学 准教授
高木良枝(たかぎよしえ)	立命館大学 客員研究員
井上学(いのうえまなぶ)	立命館大学 客員研究員
佐藤弘隆(さとうひろたか)	立命館大学 博士課程後期課程
山本 峻平(やまもとしゅんぺい)	立命館大学 博士課程前期課程
大菅直(おおすがただし)	株式会社 光影堂 代表取締役
北本 朝展(きたもとあさのぶ)	国立情報学研究所 准教授

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点が分かるように明記してください)
<p>本研究は近代から戦後京都における「都市景観」と「京町家の暮らし」の変化に関する資料を収集し、戦後京都の記憶と合わせてアーカイブするものである。</p> <p>都市景観においては、戦後から現在まで、市街地は画一的な宅地開発や建築活動が進み、京都らしい町並み、景観は失われつつある。京町家が取り壊されることで、そこに蓄積された暮らしの文化も同様に失われ、日常的な作法や祭礼、文書や所蔵品などを維持・継承することも難しくなっている。</p> <p>これからの地域の景観形成の方針や京町家の保全・継承を考える上で、京都の現状や変化を分りやすく客観的に伝える資料は重要であると考えられるが、戦後、高度経済成長以降の京都を取り巻く状況の変化は急激であり、その変化を理解しやすい形でまとめられた資料は希少となっている。</p> <p>そこで、本研究は、まず、(戦前)戦後京都の古写真と記憶を合わせてアーカイブし、そこに現在の写真を比較することで「京町家の暮らし」と「都市景観」の変化を理解しやすくビジュアルで伝える資料作成を検討するとともに、京町家に残る資料を読み解くことで、ヒアリングからではわからないことを補完的に説明する</p>

資料のアーカイブを目指す。アーカイブした資料は、地域の暮らしや文化を含んだ「京町家の暮らし」を継承する材料になると考えられるとともに、地域学習や観光まちあるきなどへの発展的利用もあわせて検討する。

5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

本研究は近代から戦後京都における「都市景観」と「京町家の暮らし」の変化に関する資料を収集し、戦後京都の記憶と合わせてアーカイブするものである。「都市整備」に関する資料については、京都の都市整備の中で、社会的、景観的な影響が大きかったと考えられる京都市電の敷設に関連し、申請者らと立命館大学アート・リサーチセンターが構築し、既に公開されている「京都の鉄道・バス 写真データベース」の充実を図るとともに、展示会「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」を実施した。また、京都の鉄道・バス 写真データベースを活用したスマホアプリ「KYOTO メモリーグラフ(国立情報学研究所北本朝展准教授開発)」の実証実験を実施し、地域学習やまちづくりにおける古写真の活用を検討した。「京町家の暮らし」においては、下京区に立地する大型町家でもともと雑穀商を営んでいた「N 家」をケーススタディとし、所蔵された 100 点もの古文書(近代を含む)の整理し、釈文を実施するとともに、一部解題し、京町家を継承していくための資料や記憶のアーカイブの在り方を検討した。

6. 研究業績

(斜字は、2018 年度の成果)

研究論文・研究発表等

- ・ Akira Takahashi, Shumpei Yamamoto, Hiroataka Sato, Naomi Kawasumi, Manabu Inoue, Keiji Yano and Asanobu Kitamoto “Learning Method that Facilitates User Understanding of Changes in the Kyoto Townscape: Utilizing a Smartphone Application with the Kyoto City Tram and Bus Photograph Database” The 29th International Cartographic Conference (ICC 2019), Tokyo, proceedings (poster) (アブストラクト採択済み 2019.7 予定)
- ・ 高橋彰、山本峻平、佐藤弘隆、河角直美、井上学、矢野桂司、北本朝展“デジタルアーカイブ写真を活用した景観理解支援システムの研究－京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として－”日本建築学会、第 18 回建築教育シンポジウム、建築教育研究論文報告集、NO18, pp 35-41, 2018.11
- ・ 山本峻平、高橋彰、佐藤弘隆、河角直美、矢野桂司、井上学、北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会発表要旨集 No93、2018、57 頁
- ・ 山本峻平、高橋彰、佐藤弘隆、河角直美、矢野桂司、井上学、北本朝展「古写真データベースのまちあるきへの活用」、日本地理学会 2018 年春季学術大会(東京学芸大学)2018.3
- ・ 高橋彰、河角直美、矢野桂司、山路正憲、山本俊平、佐藤弘隆、今村聡:「クラウドソーシングを活用した写真資料(古写真)の地理情報等の同定方法の検討とその課題－京都市電のデジタルアーカイブ写真を事例として－」, 地理情報システム学会講演論文集, Vol.27, pp.4, (CD-ROM)(2017)
- ・ 高橋彰、矢野桂司、高木良枝、佐藤弘隆”第 IV 期京町家調査を用いた空き家化の要因に関する研究”日本建築学会大会学術梗概集, No.7148, pp401-402, (広島)2017.8
- ・ 山本峻平、佐藤弘隆、高橋彰、河角直美、井上学、矢野桂司「デジタルアーカイブ写真の GIS 化とその活用－「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築－」、人文科学とコンピュータシンポジウム論文集 Vol.2017No2、2017、199-206 頁
- ・ 山本峻平、佐藤弘隆、高橋彰、河角直美、井上学、矢野桂司「デジタルアーカイブ写真の GIS 化とその活用－「京都の鉄道・バス写真データベース」の構築－」、じんもんこん 2017 人文科学とコンピュータシンポジウム(大阪市立大学)2017.12.10 ポスター発表

主催したイベント等

- ・ (再掲)「KYOTO メモリーグラフ」の実証実験【実施日】(1 回目)2018 年 10 月 21 日(日)(2 回目)2019 年 3 月 3 日(日)まちづくりオープンキャンパス「同時開催イベント」として実施【参加者数】(1 回目)23 人(2 回目)6 人【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- ・ KYOTO メモリーグラフ トークセッション【実施日】2018 年 10 月 21 日 16:00-18:00【来場者数】35 名(実験参加者以外も聴講可能)【共催団体】システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター、立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム

- ・ (再掲)市電の今昔写真と古写真パノラマ写真から京都の町並みの変遷をたどる展示会「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2019年2月17日-25日(2月20日ギャラリーートーク)【実施場所】ひと・まち交流館京都 1階展示コーナー【来場者数】826名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム
- ・ (再掲)ギャラリーートーク「今昔写真から見える京都の変遷 ～市電の音が聞こえる風景と現在～」【実施期間】2月20日 19:00-20:30【実施場所】ひと・まち交流館京都 地下1階 ワークショップルーム【来場者数】46名【共催団体】立命館大学アート・リサーチセンター、京都の鉄道・バスアーカイブ研究会、特定非営利活動法人京都景観フォーラム

講演

- ・ 高橋彰「記憶の継承プロジェクト～古写真アーカイブとその活用～」平成30年度住みよいまち&絆研究所総会・研究フォーラム2018年7月

メディア掲載等

- ・ 「市電の風景 スマホで変遷探る」2018年10月13日京都新聞朝刊
- ・ 「今昔写真から見える京都の変遷－市電の音が聞こえる風景と現在」2019年2月20日京都新聞朝刊
- ・ 「市電に見る京の今昔」2019年2月25日京都新聞朝刊
- ・ 「鳥居撤去や道路拡幅・・・市電に見る京都の今昔 愛好家が写真展」2019年2月24日14時28分京都新聞WEB版
- ・ 「懐かし市電京の今昔」2019年2月25日読売新聞朝刊

競争的資金等（科研費を除く）

- ・ 高橋彰, 矢野桂司, 河角直美, 山路正憲, 佐藤弘隆, 山本峻平「メモリーハンティングを活用した戦後から現在の京都の景観変化に関する研究－京都市電のデジタル・アーカイブ写真を事例として－」2018年度情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設公募型共同研究「ROIS-DS-JOINT」,2018年6月26日～2019年3月31日, 研究代表

データベース等

- ・ 平成28年2月 京都の鉄道・バス 写真データベース公開・拡充 資料数約1900点⇒約5300点公開/10700点データ化(非公開含む)
- ・ 平成30年2月「KYOTO メモリーグラフ」GooglePlayにて公開。